

東京薬科大学新聞

発行所 東京薬科大学新聞会
責任者 原 太志

十月号

98年度就職は今

～不景気の影響はいかに～

～生命科学部～

	平成十年度	平成九年度
男子	70.4%	61.7%
女子	59.5%	55.3%

本年度の就職状況が発表された。長引く不況は、学生の就職にどのような影響を及ぼしたのだろうか。

生命科学部

生命科学部は、今年で二年目の就職活動の時期を迎えることとなった。今年度は卒業予定者百五十一名中、六十一名が就職を希望している。今年度と昨年度の同時期の就職内定状況を左の表に示した。表からは、昨年度に比べて、就職内定率が一段と増加したことがわかる。また、化学・製薬関係の企業が多かった昨年度に対して、今年度は食品関係の企業に多く内定している。これは、生命科学が様々な分野で活用できる学問であるということだろう。

学科別に見ると、分子生命科学科の学生は製薬会社等の営業や食品関係の仕事に内定した人が多いようである。それに対し、環境生命科学科の

～薬学部～

	平成十年度	平成九年度
男子	39.0%	46.7%
女子	51.4%	52.7%

(九月十五日現在)

学生は環境に関わる研究・技術系への志向が強い。だが、環境関係の分野は最近になって注目され始めたばかりなので、業界としての基盤が確立していない。その為、全体的に求人数が少なく、結局公務員や食品、コンピュータ関係に流れの人が多。

生命科学部就職担当の多賀谷光男教授からコメントを頂いた。

「不況で就職状況は厳しくなっているが、企業が全く採用していない訳ではない。企業にとって魅力的な学生は、すぐに内定がもらえる。しかしそうでない学生は、どれだけ試験を受けても内定をもらえないのが現状だ。学生がしっかりと自己分析を行い、採用活動も十分に考慮し、就職活動を行うことが重要である。」

在学生への就職ガイダンスは、年内にあと三回行われる予定である。三年生だけでなく、興味のある一・二年生も参加してみるといいだろう。

薬学部

景気の低迷が続く中で就職状況は氷河期を迎えている。これまで薬剤師の求人数は比較的安定とされてきたが、そうとも言えなくなってきたようだ。

今年の九月十五日現在及び昨年の同時期の就職内定状況を上の表に示した。これを見ると、内定率は男女共に下がっているが、特に男子の低下が著しいことが分かる。これも長引く不景気による影響であらう。

例えば製薬会社の場合、売り上げの低下に比例して内定者が減っている。また、病院薬剤師の採用者数も同様に減少した。一方、調剤薬局の求人数は医薬分業が進められているために増加している。だが、将来的にはその増加傾向も止まってしまうことが予想される。

薬学部就職担当の宿利郎教授から、在校生へのアドバイスを頂いた。

「昨今、厳しい就職状況が続いているが、それは薬剤師の世界でも例外ではない。これからの社会で必要とされるのは、信頼できる人物である。しかし、薬学の確かな知識と技術の裏付けなくては、その信頼は得られない。そのため、一年生のうちから基礎を固めておくことが不可欠である。また、井の中の蛙とならないためにも、社会情勢を見据え、判断力を養うことを忘れてはならない。」

このように就職にくい状況下では、進路を決めることは容易なことではない。しかし、できるだけ早く自分の将来について考えておかなければ、就職活動の際に出遅れかねない。したがって、三年生だけでなく一・二年生も、就職に対して関心を持つことが大切だろう。

ギター部

定演

来る十一月二十八日(土)に、本学ギターアンサンブル部の第三十二回定期演奏会が行われる。詳細は左記の通りである。

日時 十一月二十八日(土)
開場 午後五時半
開演 午後六時
場所 八王子市南大沢
文化会館交流ホール
(入場無料)

お知らせ

新聞会では、新聞の記事内容をより一層充実させるために、教務棟G階の学生部前に御意見箱を設置しています。しかし、御意見箱を利用する学生が少ないのが現状です。新聞に対するご意見・ご要望などがありましたら、何でも結構です是非ご利用ください。

また、部や同好会、サークルなどで新聞に載せたいことがある団体は、部室横断階の新聞会に直接お知らせください。皆さんの声をお待ちしております。

小説「聖書」

古くから聖書をモチーフにした文学や芸術作品は多い。ダンテの『神曲』やレオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』などは皆さん御存知だろう。それらの作品をより深く味わうために、聖書を読んでみたいという人も多いことと思われ。だが、難しいという先入観から敬遠している方も多いためではないだろうか。

そういった方にお薦めの本がある。徳間書店から発行された、ウォルター・ワングリン作の『小説「聖書」』である。これは題名通り、聖書を小説化したもので、旧約篇と新約篇の二冊構成になっている。旧約篇には天地創造やノアの箱船、モーセの十戒などが書かれている。そして新約篇にはイエス・キリストの生涯、受難、死、復活、さらにイエスの弟子達とその後などについて述べ

られている。著者は聖書によく出てくる内容の重複を無くし、独自に再構成を行っている。また、風景描写や人々の生活、時代背景などを織り込んで書いており、登場人物の心理描写も非常に巧みである。聖人と呼ばれる人々が私達と同じように悩み、過ちを犯す姿は、きつと身近なものとして感じられるだろう。

古来、キリスト教は西洋社会の歴史や生活に大きな影響を及ぼしてきた。そのキリスト教の聖典である聖書について知ることが、国際化の進む現代において、西洋社会の理解に役立つことだろう。

聖書に興味のある人はもちろん、そうでない人にも十分に楽しめる読み応えのある長編小説である。秋の夜長のお供には是非いかがだろうか。

薬味

秋の楽しみといえは、たくさん秋の味覚を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。松茸、秋刀魚、栗、ぶどうなど、秋の食べ物には私達の舌や胃袋を満足させてくれます。しかし、ついつい食べ過ぎてしまったり、ダイエットをしようと思っても人にもいるでしょう。ダイエットという、私たちが簡単に体重を減らすことだけを考えた場合、その結果、過度の食事制限をするという方法を選ぶ人が多くいます。この方法は割と早く体重が落ちるため、ダイエットに成功したと思ってしまうかもしれません。しかし、この方法には大きな問題が二つあります。一つは、余分な脂肪とともに、筋肉や骨、血液なども一緒に失ってしまうことで、体に大きな負担がかかることです。もう一つは、規則的な食事をしないために、普通に食べるよりも体が栄養分を余計に吸収してしまい、かえって太り易くなってしまいます。そこで、太り易くならないダイエットには、ラテン語で食事療法をするという意味の「dietate」が語源です。ダイエットとは本来、体を健康にするためのものなのです。では、どうすれば健康的なダイエットができるのでしょうか。それにはまず、三食きちんと食べることが重要です。そして、十分に栄養を摂取したところで、余分な脂肪を減らすために十分な運動をすることが理想的です。今の季節なら、紅葉狩りやハイキングなどをしてみればどうでしょうか。ダイエットは食べる量を極端に減らすのではなく、きちんと食べて十分な運動をすることが重要なことです。辛いダイエットではなく、楽しいダイエットをしながら、秋を存分に消費してみませんか。(ppp)

